

## &lt; 介護・医療連携推進会議における評価 &gt; ※公表用

## 【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション永田
所在地	(〒 940 - 0874 ) 新潟県長岡市永田 2 丁目 9 番 25 号		

## 【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。必要な人に必要なサービスを提供し、その人の築き上げた暮らしを支えていく。  
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

## 【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 9 月 30 日	従業者等自己評価 実施人数	( 7 ) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	---------	---------

## 【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2024 年 2 月 19 日	出席人数 (合計)	( 22 ) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	■自事業所職員 (2 人)    ■市町村職員 (1 人)    ■地域包括支援センター職員 (1 人)    ■地域住民の代表者 (3 人) ■利用者 (1 人)    ■利用者の家族 (1 人)    ■知見を有する者 (3 人)    ■医療従事者 (7 人)    ■その他 (3 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護医療連携推進会議の適切な開催を行う。</li> <li>・会議資料の作成では多くの職員に参加してもらい学びの場になるようにする。</li> <li>・質の高いケアの提供のために理念や業務目標を共有して取り組んでいく。また研修などで職員の知識向上に努めていく</li> <li>・感染症のBCPに沿ったシミュレーションを行う。</li> <li>・各利用者の災害時の避難行動について検討していく。</li> <li>・事業所内のヘルパー研修では、なるべく多くの職員が出席できるよう働きかける。個別研修計画に基づき、事業所内研修だけでなく外部の研修にも積極的な参加を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護医療連携推進会議の適切な開催を行うために会議の資料作りなど計画作成責任者だけでなく担当職員からも協力してもらい学びの場とした。</li> <li>・事業所内のヘルパー研修へ、多くの職員が出席できるよう勤務を考え、出席率を高めた。また、個別研修計画に基づき、事業所内研修だけでなく外部の研修にも積極的な参加を促している。</li> <li>・園全体の感染症や災害時のBCPを確認し、ヘルパー事業所内でも災害時の緊急連絡網の練習を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護医療連携推進会議の資料作りなど計画作成責任者だけでなく他職員が協力して作成する事で学びの場となっている。</li> <li>・ヘルパー研修、外部研修共に職員を多く参加させることが出来ている。</li> <li>・感染症対策や地震時対応は素早く対応できていた。避難が必要な際、素早く対応できるかBCPの確認や訓練が必要。</li> </ul>	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身機能の維持回復を目標とする介護計画を作成するため、現状とその先を見据えたアセスメントを日頃から全職員が行えるような仕組みを構築する。</li> <li>・ミーティングの出席率を上げる。定期のミーティング以外で話し合いの場を設けた場合は、確実に記録に残す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、モニタリングを行い介護計画が現状に合っているのか等、計画作成者と一緒にミーティング等で検討している。</li> <li>・心身機能に変化が見られた際は、フェニックスネットを活用し、多職種と連携し対応している。</li> <li>・ミーティングに参加できるように勤務を考えて出席率を上げた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングを行い計画作成者と一緒に検討し計画の見直しなど早く対応出来ている。</li> <li>・フェニックスネットを活用し、多職種と連携しアセスメントを行うことでその人に合った訪問介護計画になる様、心掛けています。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミーティング以外でもタブレット上に検討したいことなどを上げて意見を出し合い情報共有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間ではミーティングやタブレット上で意見を出し合い検討し情報共有している。</li> </ul>
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの基本情報を定期的に更新し常に最新の情報を把握する。</li> <li>・デイサービスやリハビリ等の他職種とも情報交換する機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの基本情報など変更があった際は修正している。</li> <li>・デイサービスの送迎時など情報を交換し、コロナ禍で中止していたリハビリテーション会議など開催時には参加していく予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの基本情報などの変更は直ぐに修正できている。</li> <li>・リハビリテーション会議に参加することができた。</li> <li>・デイサービスの送迎時に会えた際は施設での様子など聞くように努めた。</li> </ul>
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進会議以外に年 4 回定期随時の会報を発行する。</li> <li>・サポートセンター永田全体で地域に向けた広報誌を発行する。</li> <li>・第 8 期計画の勉強会を開催し全員への周知を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期随時の会報を発行している。</li> <li>・サポートセンター永田全体でも広報誌を作成し町内に回覧している。</li> <li>・長岡市の第 8 期計画をヘルパー全体研修で勉強し、さらに概要を事業所内に掲示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期随時の会報は年 4 回を目指していたが、年 2 回の発行となった。サポートセンターでの広報誌を年 2 回、永田町内に回覧する予定で現在作成中。</li> <li>・長岡市の第 8 期計画を勉強し、地域包括ケアの構築に努めた。</li> </ul>
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援に向けたケアを実践するため、利用者の生活歴や普段の生活に着目した適切な訪問介護計画書を職員全員が作成できるように努める。</li> <li>・利用者アンケート、居宅アンケートは継続して実施し、利用者が気兼ねなくご意見、ご要望を伝えやすいような風通しのよい関係を築く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人らしく過ごしていただく為に、タブレットで日々の様子を記入し、毎月のミーティング等での意見交換等で職員全員が把握している。また研修等で記入方法を学んだ。</li> <li>・利用者や家族に対してアンケートを行いご意見等いただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅での生活を安心して過ごせるように、利用者・家族とコミュニケーションを図り、どのような援助が必要なのか。また何が負担になっているのか考え援助するように努めた。</li> <li>・利用者・家族よりアンケート結果で安心して暮らせるようになったと評価していただいた。</li> </ul>	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護医療連携推進会議の資料作りなど計画作成責任者だけでなく他職員が協力して作成する事で学びの場となった。</li> <li>・ヘルパー研修、外部研修共に職員を多く参加させることが出来た。</li> <li>・感染症対応や地震時対応は素早くできていた。避難が必要な際、素早く対応できるかBCPの確認や訓練が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念、運営方針、業務目標を共有し、理解したうえで業務を行い事業所全体のケアの向上を図る。</li> <li>・法人内外の研修に参加し更に介護技術の向上を図る。</li> <li>・BCPに沿って災害や感染症対応を速やかに行動できるよう確認や訓練を行い、利用者に安心してもらえるサービス提供に努める。</li> </ul>
II. サービス提供等の評価	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングを行い計画作成者と一緒に検討し、計画の見直しなど早く対応出来た。</li> <li>・フェニックスネットを活用し、多職種と連携しアセスメントを行うことでその人に合った訪問介護計画になるように心掛けるようになった。</li> <li>・職員間ではミーティングやタブレット上で意見を出し合い検討や情報共有ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人らしい生活を過ごせるように出来ることや想いに着目し各担当を中心にモニタリングを行い、変化時には直ぐ多職種と連携しアセスメントを行い介護計画書の修正を図る。</li> <li>・先を見越した適切なリスク管理のためにリスクマネジメントに努める。</li> </ul>
2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの基本情報などの変更は直ぐに修正できた。</li> <li>・リハビリテーション会議に参加することができた。</li> <li>・デイサービスの送迎時に会えた際は施設での様子など聞くように努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェニックスネット等を活用し関連機関との連携を密に図り、在宅生活を安全に安心して継続出来るように努める。</li> </ul>
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期随時の会報は年4回を目指していたが、年2回の発行となった。来年度も広報誌を発行し永田町内に回覧していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進会議以外に年4回定期随時の会報を発行、サポートセンター永田全体で地域に向けた広報誌を発行する。</li> <li>・地域の行事などに参加し、顔の見える関係作りを行い意見や要望など聞きながら地域の方と関わり、相談しやすい関係作り</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡市の第8期計画を勉強し、地域包括ケアの構築に努めた。</li> </ul>	に努める。
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅での生活を安心して過ごせるように、利用者、家族とコミュニケーションを図り、どのような援助が必要なのか。また負担になっているのは考え援助するように努めた。</li> <li>・アンケート結果で安心して暮らせるようになったと評価していただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員全員が、理念、運営方針、業務目標を認識して質の高いケアの提供を目指す。</li> <li>・利用者、家族の声を聞き、その人らしい生活が最期まで安心して出来るように援助する。</li> </ul>

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します